

日刊 動労千葉

1988.4.11
No. 95

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

当局の不当労働行為を断じて許すな！ 4・14支社抗議斗争に全取場から総決起を！

すべての組合員のみなさん！
われわれの怒りは、今頂点に達している。
JR当局は、四月四日、五日とウルトラな攻撃を加えてきた。

一つには、運転関係四〇名の強制配転、二つには、強制配転させられている仲間の兼務はずし、三つには、のべ二八名（国労組合員四名を含む）にも及ぶ大量不当処分。これらの攻撃は、明らかに、分割・民営化強行後一年、いまだ動労千葉をはじめとするたかろ国鉄労働者が不屈にたたかいていっているが故に、あせりかられたJR当局、そしてなによりも、革マル鉄道労連松崎が国鉄労働運動をたたきつぶすためにしかけてきた新たな組織破壊攻撃である。

われわれは、この重大な局面にあたり、全組合員の総団結と、この新たな組織破壊攻撃を断じて許さず、全組合員が実力反撃へと総決起されることを訴える。

今回の強制配転は、四〇名中三二名が動労千葉組合員であり、役員・活動家を狙いうちにした不当労働行為である。また兼務外しは、本来の仕事はずし、強制配転しておきながら、本来の職名をはずしてしまいう二重、三重の不当攻撃であり、さらに、のべ二八名にもおよび不当処分は、配転先や業務の説明を当時の運行部や現場当局に求めたことをとらえ、また、昨年四月のあまりのデッチ上げであるがゆえに権力さえも取り上げることができなかった土屋粹のコロナ事件を理由に、出

勤停止を含む重処分を理由ならざる理由、まさしくコジツケで下したのだ。
もはやガマンすることはできない。すべての怒り、不満を解き放ち、総力決起しよう。
労働者に、首切り、出向、配転、合理化、労働強化を強制し、「一企業一組合」で産業報国会II戦争の道まで強制するJR当局II革マル鉄道労連を断じて許すな！
動労千葉に結集するすべての仲間一人ひとりが動労旗をしっかりと打ちたて、総反撃にうってよう！
4・14 JR千葉支社抗議斗争に結集しよう！

不当処分者

大塚	明	幕張支部	出勤停止	15日
佐藤	博	幕張支部	出勤停止	5日
滝口	誠	幕張支部	出勤停止	5日
永島	務	幕張支部	出勤停止	5日

以下
出勤停止10日、2名
減給 1名
戒告 1名
訓告 5名
嚴重注意 11名
国労組合員 減給1名、戒告3名

* いずれも敬称略

国鉄「分割・民営化」反対 / 三里塚二期工事阻止！

もはや黙ってはいられない！

強制配転者名簿 (他は「売店」)

氏名	年齢	配属先	通勤駅	備考
幕張 青山浩	25	船橋	五井	
" 伊藤俊彰	30	本納	蘇我	支部青年部長
" 永嶋務	29	巖根	津田沼	本青年部書記
" 吉野幸成	39	亀戸	千葉	支部執行委員
" 川崎秀二	34	西船橋	稲毛	"
" 滝口誠	43	亀戸	船橋	支部長
" 鶴岡満幸	41	船橋	君津	
" 渡辺達	31	稲毛海岸	大貫	
" 市東正己	29	稲毛	大原	
" 福島和彦	26	西千葉	館山	
" 結城敏之	26	西船橋	勝田台	支部執行委員
" 江沢義春	26	稲毛海岸	津田沼	支青書記次長
津田沼 野村康哉	27	稲毛海岸	津田沼	支青執行委員
" 高田昌史	28	"	西武線	支部青年部長
" 吉野道夫	28	佐原	千葉寮	支部書記長
" 鈴木雅樹	37	稲毛海岸	稲毛	支部執行委員
勝浦 植村卓爾	42	蘇我	勝浦	
" 吉野一昭	29	千葉	"	
" 高寺由雄	29	"	"	
" 関美智夫	29	蘇我	"	
" 渡辺涉	29	千葉	興津	
" 長田敏之	29	"	勝浦	支部書記長
" 岡安正人	30	西船橋	千葉	支部執行委員
" 石井謙次	30	千葉	勝浦	"
" 東正幸	30	"	御宿	
" 岩政正樹	30	"	勝浦	
" 関一夫	30	"	"	支青部長長代
木更津 半田幸夫	25	西千葉	木更津	支部執行委員
" 荒井秀雄	25	長浦	佐貫町	支部副青年部
" 木田隆	26	西船橋	八幡宿	
" 山田護	30	南船橋	検見川	副支部長
" 外山義章	30	千葉港	木更津	支部書記長
その他	国労3名、鉄産労5名、鉄道労連は0、合計40名			

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！